

九月六日の追悼詩

偉大なる男が死んだ
祖国を解放せんと不可能を覆し
理想を実現せんと誰よりも邁進^{まいしん}し
波乱に満ちた人生であった

男が“白”を残したが故
男の国は栄華を手にし
男が“白”を排したが故
かつての栄華は散り果てた

美点のみを語るには、あまりに長く生きすぎて
汚点のみを抜こうにも、成した事績は無視できぬ

半ばに倒れた同士が如く、鬼籍に入るのが早ければ
貴君の名前は今もなお、誉をもって語られん

屈指の名君？ 稀代の暗君？
評価をしかと定めるに、今はあまりに早すぎる
最後の同士が死んだ後、すべてが古典になった時
男の軌跡の真価をば、その後こそ定まらん

今はただ東の果てより貴君に黙禱^{もくとう}を